日语有声读物 2

深入故事情境
同时训练听力与阅读

1 MP3

日文学习者的阅读好品

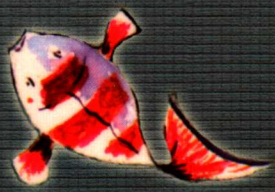
上泽社日文编辑小组 编选

有岛武郎
・僕の帽子のお話

芥川龙之介
・蜘蛛の糸
・白

小熊秀雄
・焼かれた魚

宫泽贤治
・猫の事務所



上海交通大学出版社

日语有声读物 2

有岛武郎
芥川龙之介
小熊秀雄
宫泽贤治

上海交通大学出版社

本书由(台湾)上泽社文化事业有限公司授权出版
上海市版权局著作权合同登记号：图字 09－2005－174 号

图书在版编目(CIP)数据

日语有声读物. 2/ 上泽社日文编辑小组编选. －上海：上海交通大学出版社，2005
ISBN 7-313-04036-9

Ⅰ. 日 … Ⅱ. 上… Ⅲ. 日语－语言读物，故事
Ⅳ.H369.4; Ⅰ

中国版本图书馆 CIP 数据核字（2005）第 052330 号

日语有声读物 2
上泽社日文编辑小组编选
上海交通大学出版社出版发行
（上海市番禺路 877 号　邮政编码:200030）
电话：64071208　出版人：张天蔚
上海市美术印刷厂印刷　全国新华书店经销
开本:880mm × 1230mm 1/32　印张:4　字数:111 千字
2005 年 6 月第 1 版　2005 年 6 月第 1 次印刷
印数：1-5050
ISBN7-313-04036-9/H ·812 定价(含MP3)：25.00元

版权所有　侵权必究

【推荐序】

成人的想像世界：有声胜无声

赖振南

“很久很久以前，有个地方住着一位……”这样的声音在每个人的脑海深处都印刻着，这或许是婴幼儿时候、或许是孩提时代，母亲在耳边所讲述的童谣或儿童故事的深层余韵吧。日本的传说故事、童话甚至儿童文学大都以此作为故事的开端来吸引读者或听者，开启孩童想像、幻想的空间，甚至激发成年人纯真童心的复苏。

上泽社精选了日本儿童文学数位代表性作家的经典作品，推出两本有声故事集，内容除了能满足喜好儿童文学的读者无声的梦幻享受外，也能提供给日本语学习者有声的语言感受，自然而然融会贯通日语，并毫无负担地吸收日本深层文化。相信学习效果会有声胜无声。

本故事集中有芥川龙之介、有岛武郎、宫泽贤治等著名日本小说家的儿童文学作品；也有儿童文学作家新美南吉、梦野久作、楠山正雄及小熊秀雄的著名童话。那么“童话”和“儿童文学”有何差异呢？

“童话”大致可区分为：（一）指江户时代（1603 年）以来所沿用的“古传说故事”，如《桃太郎》、《浦岛太郎》、《猴蟹大战》；（二）指近代儿童文学中的空想创作故事，如《蜘蛛丝》、《一串葡萄》、宫泽贤治和新美南吉的作品；但“童话”和“儿童文学”在定义上没有很清楚的区别，所以两者经常被误用，都被视为同义语。

其实在日本，“儿童文学”这一名称要到昭和初期（约 1925 年以后）才被使用，这之前有所谓“少年文学”、“古传说故事”、“童话”、“童话文学”等不同名称。不过，不论“童话”或“儿童文学”，其基本的定义应该是，以幼儿至中学生为阅读对象、由成年人所创作的文学作品，不包含

儿童所写的东西在内。可是，对于“儿童文学”的认知却有两种不同的意见，其一认为儿童文学既然是文学就不能与一般的文学有丝毫不同，另一认为对象既然是儿童，就该有别于成年人的文学。这两大立场的争议在于儿童文学该不该导入教育的观点，换句话说，问题症结就在于成年人如何看待儿童。

那么您的儿童文学观点呢？请听过《经典日本文学有声故事集》*之后再发表意见吧。

本文作者为辅仁大学日文系系主任

* 现书名《日语有声读物》，译文做了适度加工。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

听日本文学作品学日文

文学也是可以用来听的。

优美的文学作品除了通过阅读来领略文字之美外，更适合用耳朵来感受字里行间蕴藏的真挚情感、发人深省的故事寓意。我们推出这套《经典日本文学有声故事集》* 正是希望通过有声读物的出版方式，让读者更容易了解日本文学。

上泽社日文编辑小组从青空文库中选编了日本名家芥川龙之介、有岛武郎、小熊秀雄、宫泽贤治、楠山正雄、新南美吉、梦野久作等人的知名作品，搭配精美的插画，并录制成日语原声 MP3，借由 MP3 的故事情境，带领读者快速掌握学习日文的新方法——听日本文学作品学日文！

《经典日本文学有声故事集 1・2》* 共选编了《蜘蛛丝》《猫咪事务所》《浦岛太郎》《烤熟的秋刀鱼》等 14 个故事，这些遴选的作品，多半为各大专院校日文系所指定阅读，我们期待读者经过反复聆听 MP3 及阅读，能够具备赏析的能力，提升日文程度。这是台湾第一套日本文学有声读物，我们将邀请知名教授、学者举办一系列的座谈会，让有兴趣的读者，通过这些方式进一步认识日本文学，更加了解各个大师的作品风格。

《经典日本文学有声故事集》* 将继续挑选日本优秀文学作品，介绍给读者，上泽社日文编辑小组也会将选材触角延伸至日本奇幻文学、远古神话、现代文学……通过不同的作品风貌，了解日本当时当地的风土民情，相信这样的日文学习方式必定是最实用且最有效率的。

上泽社出版总监　郑素雯

* 现书名《日语有声读物》，译文做了适度加工。

目　　录

有岛武郎

僕の帽子のお話 …… 2　MP3－1

「僕の帽子はおとうさんが東京から買って来て下さったのです。ねだんは2円80銭で、かっこうもいいし、らしゃも上等です。おとうさんが大切にしなければいけないと仰有いました。僕もその帽子が好きだから大切にしています。夜は寝る時にも手に持って寝ます」

芥川龙之介

蜘蛛の糸 …… 28　MP3－2

ある日の事でございます。御釈迦様は極楽の蓮池のふちを、独りでぶらぶら御歩きになっていらっしゃいました。

白 …… 40　MP3－3

ある春の午過ぎです。白と云う犬は土を嗅ぎ嗅ぎ、静かな往来を歩いていました。

小熊秀雄

焼かれた魚 …… 74 MP3－4

白(しろ)い皿(さら)の上(うえ)にのった焼(や)かれた秋刀魚(さんま)は、たまらなく海(うみ)が恋(こい)しくなりました。

宮泽贤治

猫の事務所 …… 94 MP3－5

——ある小さな官衙に関する幻想

軽便鉄道(けいべんてつどう)の停車場(ていしゃじょう)のちかくに、猫(ねこ)の第六事務所(だいろくじむしょ)がありました。ここは主(おも)に、猫(ねこ)の歴史(れきし)と地理(ちり)をしらべるところでした。

有岛 武郎

1878（明治11年）—1923（大正12年）

ありしま　たけお

大正时期的小说家，东京都出生，由于对农业的憧憬而进入札幌农校（今北海道大学）就读，毕业后到美国留学，学习历史、经济学，甚至对社会主义也有很大的兴趣，回国后于札幌母校执教，非常喜爱札幌这个地方，称札幌为「真生命の故郷」。明治41年与神尾安子结婚，43年与志贺直哉、武者小路实笃创立「白樺派」，展开文学创作活动，发表了《かんかん虫》《在る女のグリンプス》等作品。大正5年（1916年）父亲与妻子的去世，成了一大转折点，真正朝向作家之路迈进，代表作有《カインの末裔》《或る女》《生まれ出づる悩み》，许多描写下层阶级女性的作品都很受欢迎。晚年倾向于社会主义，反对私有财产，并将自己于北海道的农场开放给佃农。1923年与有夫之妇的美貌女记者波多野秋子于轻井泽殉情，时年45岁。

僕の帽子のお話

「僕の帽子はおとうさんが東京から買って来て下さったのです。ねだんは2円80銭で、かっこうもいいし、らしゃも上等です。おとうさんが大切にしなければいけないと仰有いました。僕もその帽子が好きだから大切にしています。夜は寝る時にも手に持って寝ます」

綴り方の時にこういう作文を出したら、先生が皆んなにそれを読んで聞かせて、「寝る時にも手に持って寝ます。寝る時にも手に持って寝ます」と二度そのところを繰返してわははははとお笑いになりました。皆んなも、先生が大きな口を開いてお笑いになるのを見ると、一緒になって笑いました。僕もおかしくなって笑いました。そうしたら皆んながなおのこと笑いました。

その大切な帽子がなくなってしまったのですから僕は本当に困りました。いつもの通り「御機嫌よう」をして、本の包みを枕もとにおいて、帽子のぴかぴか光る庇をつまんで寝たことだけはちゃんと覚えているのですが、それがどこへか見えなくなったのです。

眼をさましたら本の包はちゃんと枕もとにありましたけれども、帽子はありませんでした。僕は驚いて、半分寝床から起き上

我的帽子的故事

“我的帽子是父亲从东京买给我的。价格是两块八十钱，造型很酷，质地又好。父亲告诫我必须好好珍惜。我也很喜欢这顶帽子，所以很珍惜它，连晚上睡觉时也拿在手上。”

我在作文课时交了这样的文章，老师念给大家听，重复了两次这个地方，“连晚上睡觉时也拿在手上。连晚上睡觉时也拿在手上。”然后哈哈哈哈地笑。大家看到老师张着大嘴笑，也跟着笑了。我也觉得很滑稽，就跟着笑了。结果大家笑得更起劲儿了。

这么重要的帽子丢了，我非常伤脑筋。我只记得我跟往常一样道过“晚安”后，就把书包放在枕边，抓着帽子闪闪发亮的帽舌睡了，但，现在帽子却不见踪迹了。

睁开眼以后，看见书包还好端端在枕头旁，却没有了帽子。我吓了一跳，从床上半坐起身四下张望。父亲和母亲好像也毫不知情，仍

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

って、あっちこっちを見廻わしました。おとうさんもおかあさんも、何にも知らないように、僕のそばでよく寝ていらっしゃいます。僕はおかあさんを起そうかとちょっと思いましたが、おかあさんが「お前さんお寝ぼけね、ここにちゃあんとあるじゃありませんか」といいながら、わけなく見付けだしでもなさると、少し耻しいと思って、起すのをやめて、かいまきの袖をまくり上げたり、枕の近所を探して見たりしたけれども、やっぱりありません。よく探して見たら直ぐ出て来るだろうと初めの中は思って、それほど心配はしなかったけれども、いくらそこいらを探しても、どうしても出て来ようとはしないので、だんだん心配になって来て、しまいには喉が干からびるほど心配になってしまいました。寝床の裾の方もまくって見ました。もしや手に持ったままで帽子のありかを探しているのではないかと思って、両手を眼の前につき出して、手の平と手の甲と、指の間とをよく調べても見ました。ありません。僕は胸がどきどきして来ました。

昨日買っていただいた読本の字引きが一番大切で、その次ぎに大切なのは帽子なんだから、僕は悲しくなり出しました。涙が眼に一杯たまって来ました。僕は「泣いたって駄目だよ」と涙を叱りつけながら、そっと寝床を抜け出して本棚の所に行って上から下までよく見ましたけれども、帽子らしいものは見えません。僕は本

然在我身边熟睡。我本想叫醒母亲，但又想万一母亲跟我说，“你睡昏啦，帽子不是在这里吗?”没由来地就找到了的话，我会很丢脸，所以就不叫了，自己卷起睡袍袖子，在枕头旁边找了一下，但还是没有。我原本以为仔细找找，帽子马上就会出现，不用太担心，但不管我怎么找，帽子就是不出现，于是越来越担心，最后甚至担心到喉咙都干掉了。我环顾床缘四周，“该不会手上拿着帽子却在找帽子吧?”我把双手伸到眼前，仔细检查手心和手掌，还有指头间。但是并没有。我的胸口扑通扑通跳了起来。

昨天买的教科书字典是我最重要的宝贝，接着就是这顶帽子，所以我很难过，眼里满是泪水。“不可以哭喔!”我忍住了眼泪，轻轻地从床上下来，走到书架边，从上到下仔细看了一遍，也没有看到像帽子的东西。我真的觉得非常困惑。

当に困ってしまいました。

「帽子を持って寝たのは一昨日の晩で、昨夜はひょっとするとそうするのを忘れたのかも知れない」とふとその時思いました。そう思うと、持って寝たようでもあり、持つのを忘れて寝たようでもあります。「きっと忘れたんだ。そんなら中の口におき忘れてあるんだ。そうだ」僕は飛び上がるほど嬉しくなりました。中の口の帽子かけに庇のぴかぴか光った帽子が、知らん顔をしてぶら下がっているんだ。なんのこったと思うと、僕はひとりでに面白くなって、襖をがらっと勢よく開けましたが、その音におとうさんやおかあさんが眼をおさましになると大変だと思って、後ろをふり返って見ました。物音にすぐ眼のさめるおかあさんも、その時にはよく寝ていらっしゃいました。僕はそうっと襖をしめて、中の口の方に行きました。いつでもそこの電燈は消してあるはずなのに、その晩ばかりは昼のように明るくなっていました。なんでもよく見えました。中の口の帽子かけには、おとうさんの帽子の隣りに、僕の帽子が威張りくさってかかっているに違いないとは思いましたが、なんだかやはり心配で、僕はそこに行くまで、なるべくそっちの方を向きませんでした。そしてしっかりその前に来てから、「はあ」をするように、急に上を向いて見ました。おとうさんの茶色の帽子だけが知らん顔をしてかかっていました。あるに違いないと思っ

我忽然想到“拿着帽子睡觉是前天晚上的事，说不定昨晚我忘了呢”。这么一想，觉得既好像是拿着睡，又好像忘了拿着睡了。“一定是忘了啦。应该是忘在厅门口了。对啦。”我高兴得几乎跳起来。闪闪发亮的帽子一定是一副没事的样子挂在厅门口的帽架上。想到这里，我自己也觉得很好笑，于是用力打开拉门，突然想到如果父亲和母亲被开门声吵醒就糟了，我回头一看，平常一点声音就马上惊醒的母亲，这时还睡得很熟。我轻声关上拉门，向厅门口走去。平常那里总是关着灯，但这天晚上却如白昼般明亮，什么都看得一清二楚。我猜想在厅门口的帽架上，我的帽子一定好好地挂在父亲的帽子旁，不过还是有点担心，所以在走到那里之前，我尽量不往那个方向看。终于，真的来到帽架前了，“嘿！”我抬头向上一看，却只有父亲的茶色帽子一副没事的样子挂在那里。我以为一定会在的我的帽子，却不在。我慌了起来，四下张望。

ていた僕の帽子はやはりそこにもありませんでした。僕はせかせかした気持ちになって、あっちこちを見廻わしました。

そうしたら中の口の格子戸に黒いものが挟まっているのを見つけ出しました。電燈の光でよく見ると、驚いたことにはそれが僕の帽子らしいのです。僕は夢中になって、そこにあった草履をひっかけて飛び出しました。そして格子戸を開けて、ひしゃげた帽子を拾おうとしたら、不思議にも格子戸がひとりでに音もなく開いて、帽子がひょいと往来の方へ転がり出ました。格子戸のむこうには雨戸が締まっているはずなのに、今夜に限ってそれも開いていました。けれども僕はそんなことを考えてはいられませんでした。帽子がどこかに見えなくならない中にと思って、慌てて僕も格子戸のあきまから駈け出しました。見ると帽子は投げられた円盤のように2、3間先きをくるくるとまわって行きます。風も吹いていないのに不思議なことでした。僕は何しろ一生懸命に駈け出して帽子に追いつきました。まあよかったと安心しながら、それを拾おうとすると、帽子は上手に僕の手からぬけ出して、ころころと2、3間先に転がって行くではありませんか。僕は大急ぎで立ち上がってまたあとを追いかけました。そんな風にして、帽子は僕につかまりそうになると、2間転がり、3間転がりして、どこまでも僕から逃げのびました。

结果，我发现厅门口的格子门上夹着一个黑色物体。在灯光下仔细一看，令人惊讶的是，那很像是我的帽子。我拖着门口的拖鞋一鼓作气冲出去，打开格子门想捡回被压扁的帽子，但格子门竟然不可思议地自己无声无息打开了，帽子就倏地往巷子那边翻转出去。格子门的外头平常应该是紧闭着的挡雨门，今晚却开着，不过我根本无心去想那些事。只想着在帽子消失无踪之前，赶紧从格子门缝间追出去。帽子像飞盘般转呀转地转到两三户人家远的距离了，也没起风，真是奇怪啊。我拼命跑，追上帽子，啊，好险喔。我安了心，想把它捡起来，帽子却巧妙地从我手中挣脱，又转转转地转到前面两三户人家远的地方了。我赶忙急起直追。就像这样，每当我快要抓到帽子时，帽子就又转转转到两户人家前、三户人家前，不断从我的手中逃走。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com